

嘉数啓日大教授/ 北米県人会訪問

元沖縄振興開発金融公庫副理事長で現日大教授の嘉数啓（本部町新里出身）さんが訪米し、県人会役員らと懇談会を持った。嘉数さんはカリフォルニア州立大学バークレー、デーヴィス両校で講演の後ロサンゼルスに立ち寄ったものである。二十人の県人会理事・役員に持参したNHKビデオ「沖縄のフルーツ・ウリミバエ撲滅作戦」を紹介し、自由形式の質疑応答にはいった。諸々の質問の中で特に沖縄経済に関するものが多く、農業、産業、そして日米間の航空運賃格差にまで発展し、深夜まで続いた。

最後に一理事から「沖縄の今後の見通し」についての質問があり、嘉数さんは「沖縄の将来は明るい、観光業はもっと進展する要素があり、それには人材育成をもっと強化する必要に迫られている。台湾との経済交流をもっと進展させて行くよう配慮すべきだ。非常に懸念していることは、沖縄の海岸汚染が急速に進み、観光の生命線である美しい珊瑚ビーチが消えようとしていることだ」と述べた。

懇談会には嘉数さんの次男・トウルさんや国費留学生・仲里和之さんも参加した。

当銘貞夫（琉球新報北米通信員）

写真は左から四番目が嘉数教授